

令和8年度 我孫子南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア (参考)英語3技能
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	74	54	42	10.3	21.2	457
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

●全国学力・学習状況調査結果より

<国語> ※対全国比（昨年度の対全国比）

○学習指導要領の内容別正答率

- ・知識及び技能 「言語の特徴や使い方に関する事項」領域において、－6.6%であった。（昨年度＋5.5%）
- ・思考力・判断力・表現力等 「話すこと・聞くこと」領域において、－18.2%であった。（昨年度－5.0%）

「書くこと」領域において、－9.9%であった。（昨年度－7.3%）

「読むこと」領域において、－6.3%であった。（昨年度－4.3%）

○評価の観点別正答率 「知識・技能」において、－7.4%であった。（昨年度5.5%）

「思考・判断・表現」において、－11.5%であった。（昨年度－5.8%）

○問題形式別正答率 「選択式」において、－7.9%であった。（昨年度－2.7%）

「短答式」において、－9.2%であった。（昨年度－3.3%）

「記述式」において、－16.3%であった。（昨年度－7.5%）

○無回答率 全国と比較して、＋5.5%であった。（昨年度－3.2%）

<数学> ※対全国比（昨年度の対全国比）

○学習指導要領の内容領域別正答率 「数と式」の領域において、－15.9%であった。（昨年度－12.1%）

「図形」の領域において、－13.9%であった。（昨年度－3.3%）

「関数」の領域において、－17.4%であった。（昨年度－8.7%）

「データの活用」の領域において、－14.6%であった。（昨年度－9.5%）

○評価の観点別正答率

「知識・技能」において、－15.8%であった。（昨年度－9.3%）

「思考・判断・表現」において、－14.1%であった。（昨年度－8.4%）

○問題形式別正答率 「選択式」に対しては、－13.8%であった。（昨年度－8.3%）

「短答式」に対しては、－16.5%であった。（昨年度－9.6%）

「記述式」に対しては、－14.1%であった。（昨年度－8.5%）

○無回答率 全国と比較して、＋10.8%であった。（昨年度－6.6%）

【成果と課題】

生徒質問紙調査結果からは、生徒の学習に対する高い意欲や肯定的意識が良好に維持されている点が大きな成果である。具体的には、「英語に関する意識」スコア6.3、「英語の学習活動」5.3、「国語の学習活動」5.2、「数学に関する意識」5.1と、いずれも全国基準値（5.0）を上回っており、日々の学習に対する前向きな姿勢が根付いてきた。

しかしながら、この良好な学習意欲・関心が「思考・判断・表現」を伴う活用力や記述力につなげていくことが課題である。

また、平均無回答率の上昇（国語10.3%、数学21.2%）が顕著である。特に数学の記述式設問においては、解法への粘り強い思考や記述への試行錯誤について、課題とするところである。

今後に向けて

1.生成AI等を活用した作文・論理構成支援による記述式問題の指導と無解答率軽減

数学記述問題における突出した無解答率（最大62.2%）や国語記述式の低迷（29.2%）を打破するため、生成AIをはじめとするICTツールを有効活用し、生徒が作成した下書きの論理構成比較や自動添削を通じた推敲学習を展開することで、自らの考えを論理的に書き表すスキルを伸ばし、記述問題への苦手意識を払拭する。

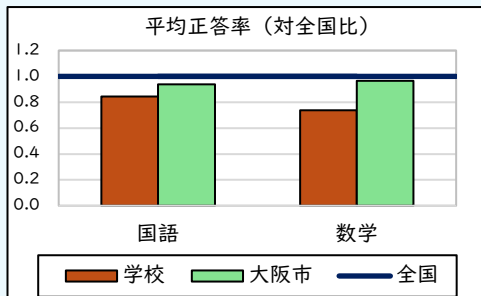
2.生徒の思考・表現を引き出し、根拠を持って説明する探究的な授業改善の実践

観点別評価「思考・判断・表現」の定着不全を改善するため、単なる暗記や機械的解法の習得にとどまらず、生徒が自分の考えを根拠（図・式・言葉等）とともに説明・発信する探究的・対話的な授業展開へ転換する。他者との対話を通じて多様な解法や主張を提示・再構

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

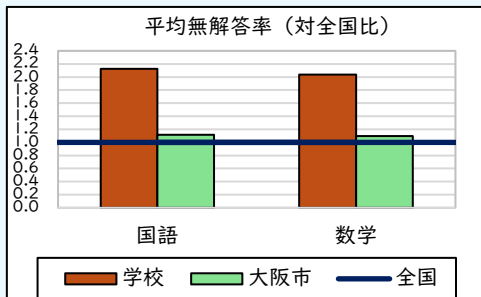
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	54	42
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



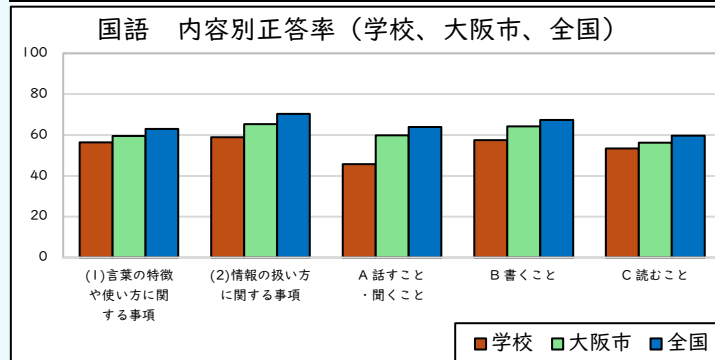
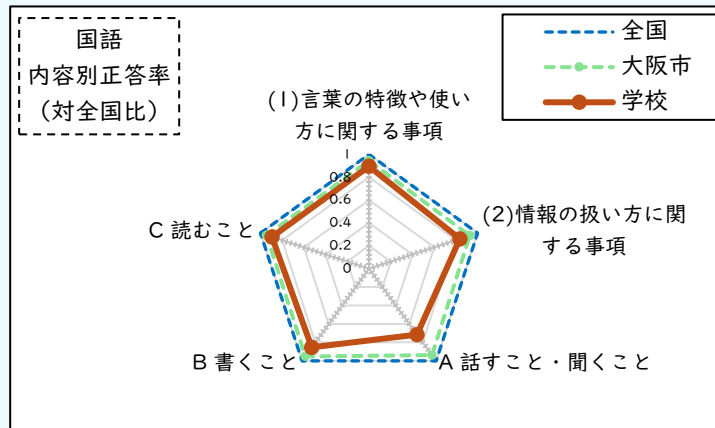
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	10.3	21.2
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



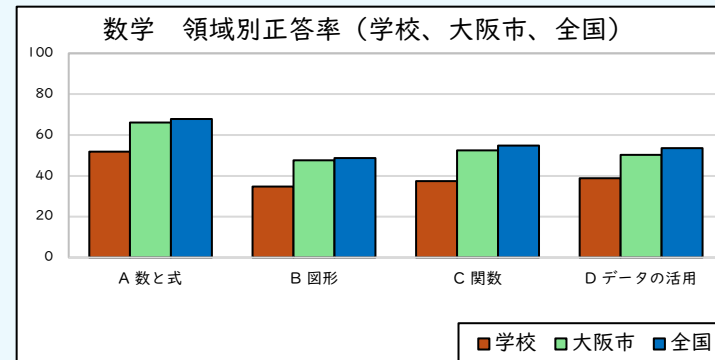
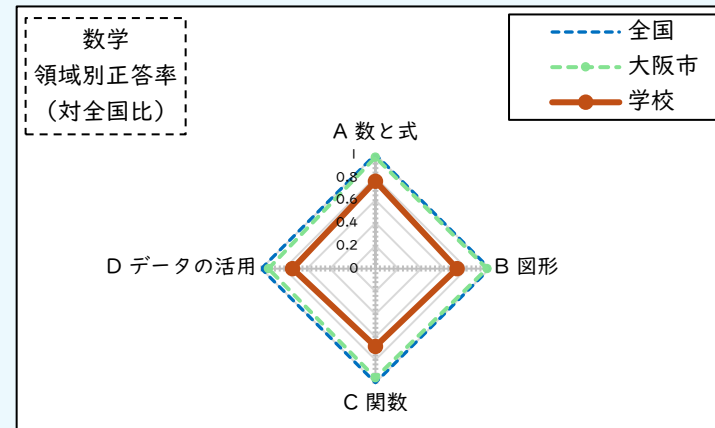
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	56.4	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	58.9	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	45.7	59.9	63.9
B 書くこと	3	57.5	64.2	67.4
C 読むこと	3	53.4	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	51.9	66.1	67.8
B 図形	4	34.8	47.6	48.7
C 関数	3	37.4	52.5	54.8
D データの活用	4	38.9	50.2	53.5



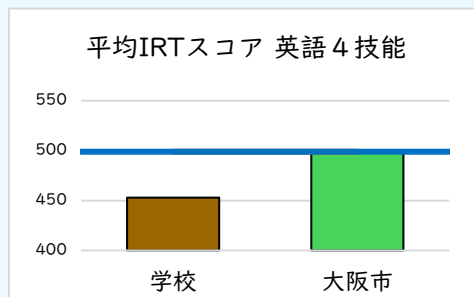
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	453 (457)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

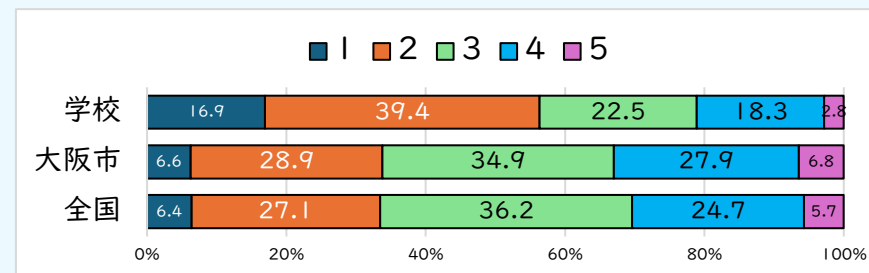
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

	1	2	3	4	5
学校	16.9	39.4	22.5	18.3	2.8
大阪市	6.6	28.9	34.9	27.9	6.8
全国	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）

